

こ　　ど　　も　　の　　か　　か　　り　　や　　す　　い　　感　　染　　症

病　　名	は　じ　め　の　症　状	発症までの期間	感　染　の　し　か　た	病気のうつる期間	登園のめやす	手　　　　　　当　　　　　　て	予防 接種	登園確認書 の提出
み　　ず　　ぼ　　う　　そ　　う (水　　　　痘)	○小さい赤い発疹が、顔や胸から始まって全身に広がる。 ○赤い発疹は、水ぶくれとなり、かさぶたができて治る。 古い発疹と新しい発疹が混在する。	2 ～ 3 週間	飛　沫　感　染 空　気　感　染 接　触　感　染	発しんが出る 1 ～ 2 日前 から、発疹が出てから 6 日目 まで	すべての発しんがかさぶた になるまで	○熱のあるときは、発疹が乾燥するまで安静にして、栄養価 の高い消化のよいものを与え、水分を十分に与える。 ○幼児はかゆくてかきむしるので、爪を切り手を洗って清 潔にしておくこと。	あり	要
お　た　ふ　く　か　ぜ (流行性耳下腺炎)	○片側又は両側の耳下腺のはれ、痛がる。 ○発熱、食欲がない。頭痛、嘔吐といった症状が出るこがある。 ○はれは 3 日位で一番ひどく、しだいに消えていく。	2 ～ 3 週間	飛　沫　感　染 接　触　感　染	耳下腺のはれの始まる 2 ～ 3 日前から、はれがだいた いひける頃まで	耳下腺、顎下腺、舌下腺の はれが発現した後 5 日を経 過し、かつ全身状態が良好 になるまで	○安静にして、はれた耳下腺を湿布する。 ○酸味のある飲食物をあたえない。柔らかい消化のよい食 物をあたえる。	あり	要
感　染　性　胃　腸　炎	○嘔気、嘔吐、下痢、発熱、腹痛などがある。	1　～　2　日	経　口　感　染 接　触　感　染 食品媒介感染	症状が出る前から、症状がな くなって 1 ～ 2 週間	下痢・嘔吐が治まり 3 日を 経過するまで	○下痢、嘔吐で失う水分を十分に補給して脱水を防ぐこと が最も大切。	ロタウイ ルスのみ あり	要
は　　　　し　　　　か (麻　　し　　ん)	○発熱、せき、鼻汁、くしゃみ、目が赤くなり、目やにがでる。 ほほの内側に白い斑点がでる。 ○発熱後 4 日目位から頭から全身に発疹がでる。	8 ～ 1 3 日	空　気　感　染 飛　沫　感　染 接　触　感　染	発熱前 1 ～ 2 日前から発しん がでてから 5 日目まで	熱がさがった後、 3 日経過 するまで	○十分な水分と消化の良い食物を与える。 ○うがいなどをさせて口の中を清潔に保つ。	あり	要
風　　　　し　　　　ん (三日はしか)	○軽いかぜ症状が最初にでることもある。発熱、くびや耳後部 のリンパ節のはれ、発疹が顔から全身に出る。 ○発疹は 3 日位で消える。	2 ～ 3 週間	飛　沫　感　染 接　触　感　染	発しんが出る 1 週間前から、 発しんが出てから 1 週間まで	発しんが消えるまで	○熱が続く間、静かに寝かせ、発疹が続く間屋内で静かに 過ごさせる。 ○妊婦さんには近づけないよう注意する。	あり	要
百　　　　日　　　　咳	○ 1 ～ 2 週間のかぜ症状があり、次第に短く激しいせきが続い たあと、ピューという音を立てて息を吸い込むようになる。	1 ～ 2 週間	飛　沫　感　染 接　触　感　染	初期かぜ症状から、 4 週間ほ ど	特有のせきがなくなるまで 又は 5 日間の適正な抗菌性 物質製剤による治療が終了 するまで	○早めに医師に受診し、治療をうける。 ○安静にし、服薬を確実にする。	あり	要
イ　ン　フ　ル　エ　ン　ザ	○寒気、頭痛、筋肉・関節痛、のどの痛み、せき、たん、吐 き気、下痢などがある。	1　～　3　日	飛　沫　感　染 接　触　感　染	発症前後から解熱後 4 ～ 5 日	発症後 5 日を経過し、かつ 解熱後 3 日を経過するまで	○安静にし、熱の手当と、水分の補給をする。 ○発熱後、 6 ～ 8 時間あけて受診し検査をする。	あり	「療養解除 届」の提出 が要
新型コロナウイルス感染症	○発熱、呼吸器症状、頭痛、倦怠感、消化器症状、鼻汁、味覚 異常、嗅覚異常など	約 3 日～ 5 日	飛　沫　感　染 エアロゾル感染※ 接　触　感　染	発症 2 日前から発症後 7 ～ 1 0 日間、特に発症後 5 日間	発症後 5 日を経過し、かつ 症状が軽快した後 1 日を経 過するまで	○安静にし、熱の手当と、水分の補給をする。 ○症状に合わせて服薬等を行う。 ○高齢者等への接触を避ける。	あり	「療養解除 届」の提出 が要
プ　　ー　　ル　　熱 (咽頭結膜熱)	○39℃前後の発熱、のどの痛み、食欲不振、目の充血、目やに が出る。	2 日～ 1 4 日	飛　沫　感　染 接　触　感　染	発症後、 2 週間から数週間ほ ど	発熱、のどの痛み、目の充 血が消えてから 2 日を経過 するまで	○高熱が続く場合が多いので、熱の手当と水分の補給をす る。 ○のどの痛みが強いので、刺激の強い食べ物は避ける。	なし	要
流　行　性　角　結　膜　炎	○まぶたの腫れ、目の充血、涙や目やにがでる。	2 日～ 1 4 日	接　触　幹　線 飛　沫　感　染	発症後、 2 週間	医師において感染のおそれ はないと認められるまで	○眼に触らないようにする。 ○手洗いをし、洗面具やタオルなどは共有しないこと。	なし	要
急性出血性結膜炎	○目や白目の部分に出血を起こす。	1 ～ 3 日	飛　沫　感　染 接　触　感　染 経　口　感　染	ウイルス排出は呼吸器から 1 ～ 2 週間、便からは数週間か ら数か月間	医師において感染のおそれ はないと認められるまで	○眼に触らないようにする。 ○手洗いをし、洗面具やタオルなどは共有しないこと。	なし	要
腸管出血性大腸菌感染症 (O157、O26などで ベロ毒素陽性者)	○水様下痢便、腹痛、血便、発熱は軽度の場合あり。 ○乏尿や出血傾向、意識障害は、溶血性尿毒症症候群の合併の 可能性があるので、速やかに医療機関を受診する。	3 ～ 4 日 (1 ～ 8 日)	経　口　感　染 接　触　感　染	便中に菌が排泄されている期 間	医師において感染のおそれ がないと認められるまで トイレでの排泄週間が確立 されていない場合は、2回以 上連続で検便からの菌が検 出されなくなるまで	○衛生的な食材の取り扱いと十分な加熱調理 ○手洗いの励行 ○消毒の徹底	なし	要
マイコプラズマ肺炎	○咳、発熱、頭痛などの風邪症状がゆっくり進行する。 ○特に咳は、徐々に激しくなる。しつこい咳が 3 ～ 4 週間続 く場合がある。	2 ～ 3 週間	飛　沫　感　染	症状がでた時がピークで、そ の後 4 ～ 6 週間	発熱や激しい咳がなくなる まで	○安静にして、部屋は十分に加湿をする。 ○水分補給をこまめにして、のどごしのいいものや柔らか いものを与える	なし	不要
溶　連　菌　感　染　症	○発熱、頭痛、寒気、のどの痛みではじまり、粟粒大の発疹が 全身におよぶ。 ○口の周囲には発疹ができない。舌はブツブツができていちご のようになる。	2　～　5　日	飛　沫　感　染 接　触　感　染	抗菌薬内服後 24 時間が 経過するまで	適切な抗菌薬内服後 24 ～ 48 時間経過していること	○まず安静にすることが大切。 ○症状がおさまっても、腎炎やリウマチ熱といった合併 症を起こすことがある。	なし	不要
と　　　　び　　　　ひ (膿　　痂　　疹)	○顔や手足に米粒大からエンドウ豆大の発赤水ぶくれができ、 皮がやぶれてうみがあちこちについて広がり、化膿してかさ ぶたになる。	1　～　2　日	接　触　感　染	うみの出る間	患部を外用薬で処置し、浸 出液がしみ出ないようにガー ゼ等で覆って登園してさ しつかえない。	○医師に受診し、治療をうける。 ○自分の体の他の場所や他の人に感染させないよう注意 する。	なし	不要
り　　ん　　ご　　病 (伝染病紅斑)	○両ほほがりんごのように赤くなり、次に手足も赤くなる。 ○関節痛や、熱が出ることもある ○日光や入浴で赤味が目立つようになる。	1 ～ 2 週間	飛　沫　感　染	かぜ症状発現から顔に発しん が出るまで	全身症状が良ければ登園可	○症状が軽く、気づかずに治っていることもあるが、熱のあ るときは、頭を冷やし安静にする。 ○妊婦さんに近づかないよう注意する。	なし	不要
手　　足　　口　　病	○口の中の粘膜の発疹、口内痛がある。 ○手足に水ぶくれのある発疹ができ、発熱のあるものもある。 ○口内痛で食事をとることが困難になる。	3　～　5　日	飛　沫　感　染 糞口(経口)感染 接　触　感　染	発しん出現 1 日前から 4 ～ 5 週 間 感染力が強いのは最初の 1 週 間	発熱や口腔内の水疱・潰瘍 の影響がなく、普段の食事 がとれること	○ 3 ～ 4 日で自然に治る。 ○熱が高い場合は医師の診察をうける。 ○口内痛がひどいときは、薄味の柔らかい体温と同じ位の 温度の食物を与える。	なし	不要
R　S　ウ　ィ　ル　ス　感　染　症	○発熱、鼻汁、痰がからんだ咳、喘鳴などがある。 ○乳幼児は、細気管支炎や肺炎など重症化しやすい。	2　～　8　日	飛　沫　感　染 接　触　感　染	通常 3 ～ 8 日間 (乳児は 3 ～ 4 日間)	重篤な呼吸器症状が消失し 全身状態が良ければ登園可	○生後 6 か月未満の児は重症化しやすい。 ○一度の感染では終生免疫ができず、繰り返し感染する。	なし	不要

※　ウイルスを含むエアロゾルと呼ばれる小さな水分を含んだ状態の粒子を吸入することで感染する。

こどものかかりやすい感染症

乳幼児期は病気にかかりやすく、場合によっては重い病状に至ることもあります。

早期発見に努め、日頃の健康管理に注意しましょう。

感染症にかかったときは

- 静かに寝かせる。
- こどもの状態をよく観察する。（熱、便、食欲、発疹など）
- 医師の診察を受ける。
- 保育園、幼稚園はお休みする。
- 登園するときは、医師から「登園確認書」を記入してもらい、園へ提出する（表中「登園確認書の提出」欄に要と記載されているものに限る）。
- 登園確認書が不要な感染症においては、かかりつけ医で適切な治療を受け、保育園、幼稚園での集団生活に適応できる状態に回復してから登園する。

発 行

糸魚川市教育委員会事務局こども課
電話 552-1511(代表)

令和7年4月

